

灯台と共にあつた 御前崎の歴史

海のまち・御前崎と灯台の歩み〈その1〉



1974年 「御前崎灯台百年祭」が開催される

初点灯以来海を照らし続け船乗りを守ってきた、御前崎灯台の設置100年を祝う「御前崎灯台百年祭」が昭和49年(1974)5月23日に、御前崎町(当時)など関係者や来賓、約500人が出席し盛大かつ厳かに行われました。イギリス大使の名代として臨席されたアンソン海軍大佐は、「この灯台とプラントン技師の業績が、遠く海をこえて日本と英国の深い友好のシンボルとして永久に続くことをお祈りします。」と述べられました。



1917年 御前崎灯台電化

御前崎灯台は大正6年(1917)8月27日に電化されました。御前崎村に南遠電気株式会社(創業者下村勝次郎氏)が設立され、1000W電球の灯器に改修されました。これにより光力はそれまでのガスによるルックス白熱灯から、63万燭光と3.5倍もの明るさとなりました。



灯台事務所前で電気開通を喜ぶ関係者(左から3人目が勝次郎氏)

1957年 映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ



灯台守夫婦の半生を描いた木下恵介監督の映画ロケが、昭和32年(1957)、佐田啓二さん、高峰秀子さんらを迎えて行われました。地元婦人消防団員も竹槍訓練のエキストラとして出演しました。

1958年 世界初の海上三脚灯台「御前岩灯台」

昭和33年(1958)、御前崎灯台の東方3kmの海上「沖御前」に御前岩灯台が設置されました。工事費3,268万円はこの年度の御前崎町の予算とほぼ同額の大規模な工事でした。御前崎沿岸では明治18年(1885)から昭和33年(1958)までに150隻余の遭難事故が発生し、その7割弱が御前岩への乗り上げ事故でしたが、この灯台により事故は無くなりました。



1956年 南極観測用の風力発電試験



昭和31年(1956)、御前崎灯台の南側(売店がある見晴台)で、本田技研工業株式会社が第一次南極観測用の風力発電の実証試験を行いました。

これを経て、観測船「宗谷」に乗せ南極大陸に向かいましたが、陸揚げ中、突然襲われたブリザード(嵐)により海中に落とし「幻の風力発電機」となっていました。

1956年 高松宮殿下が灯台をご視察

昭和31年(1956)5月24日、高松宮殿下が灯台をご視察されました。「私も海軍時代にこの沖を数回軍艦で航行したことがある。真っ暗な夜に、灯台の光を眺めるとほんとうにうれしかった。」と述べられました。



高松宮殿下(前列中央)を囲み町役場、議会、婦人会などの代表、御前崎・白羽区長と記念写真

1972年 テレビドラマ「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ



昭和47年(1972)6月、TBSテレビドラマ「喜びも悲しみも幾歳月」のロケが、園井啓介さん、吉行和子さん、小坂一也さんらを迎えて行われました。

1972年 御前崎灯台での結婚式

昭和47年(1972)6月、千葉県のカップルが、純白の灯台に見守られて結婚式を挙げました。平成27年(2015)にはブライダル用の写真撮影に訪れたカップルもいました。



1974年 「ふるさとの灯台」の歌碑建立



浜松市出身の清水みのるさんが戦時中、大東町千浜で、海岸防備隊の任についていた頃、御前崎灯台の灯りを見て作詩しました。その歌を田端義夫さんが歌って大ヒットしました。それらを記念した歌碑が昭和49年5月23日に建立されました。

1981年 天皇陛下が皇太子時代に灯台をご見学



天皇陛下(前列右から2番目)を囲みご学友と記念写真。後列中央は廣瀬所長

昭和56年(1981)8月21日、学習院大学文学部史学科の卒論合宿のため、御来静の徳仁親王殿下(現天皇陛下)が、御前崎灯台をご見学されました。昼食後、海岸を散策された殿下は、「御前崎は、地球が丸あるく見えて、空気がおおいしく、素敵なおところですね。」と感想を述べられました。

1982年 新幹線「ひかり号」が灯台下道路を通過

昭和57年(1982)6月21日、北海道帯広市で開催した北方圏農林博覧会「グリーンピア82十勝博」に展示するため、現役引退した新幹線車両が、国鉄(現JR東海)浜松工場から大型トレーラーに乗せられ御前崎灯台下の道路を運ばれました。御前崎港から船積みされ海路を北海道に送られた車両は博覧会后、旧広尾線大正駅跡に展示されています。

